

No.23
2017.1

「橋渡し」機能の強化について

審議役 河野 晃

平成 28 年度から、第 4 期中長期計画がスタートしました。新たな中長期計画では、我が国の森林・林業・木材産業の発展に重要な役割を担っている森林総合研究所について、その研究開発の成果の最大化を図るため、第 3 期中長期計画にはなかった新たな取組として、「橋渡し」機能の強化が盛り込まれています。ここでは、その「橋渡し」機能の強化に関する林木育種センターの取組についてご紹介いたします。

第 4 期中長期計画では、「橋渡し」機能の強化として「国内外における森林・林業・木材産業に対する社会ニーズ及び科学技術の動向を踏まえ、研究シーズの創出から事業ベースの実証研究に至るまで、ニーズに合致する最適な研究成果が森林・林業・木材産業の担い手や関連企業等において活用されるよう実施体制を整備しつつ、以下の取組により「橋渡し」機能を強化する。」とされ、具体的には「産学官及び民との連携、協力の強化」と「研究開発のハブ機能の強化」に取り組むこととしています。

このことは、研究機関として、研究の推進はいうまでもなく、研究成果の実用化に向けて、大学や行政、企業、NPO 法人など、いろいろな主体と連携していく、また、地域のニーズや課題に対応するため、研究推進の拠点としてハブ機能を果たしていくということが求められて

いる中で、林木育種センターとしても、積極的に取り組んでいくということです。

このため、森林総合研究所本所に設置された産学官民連携推進委員会や地域イノベーション推進委員会等のメンバーとして林木育種センターも参画し、推進体制を強化しました。また、大学や都道府県における研究機関などとの共同研究をこれまで以上に進めるとともに、特定母樹等普及促進会議やブロック会議等の各種会議の場を活用した地域ニーズの把握等に加え、今年度から「林木育種連携ネットワーク」を新たに立ち上げました。

このネットワークは、全国にある 5 つの育種基本区ごとに設置しており、都道府県及び都道府県の研究機関や山林種苗協同組合などがメンバーとなっています。ネットワークでは、メーリングリストの作成、メールマガジンの発行を通じて、林木育種センターにおける品種開発等の情報提供や関係者間の情報交換等を行っています。

まだまだ立ち上げてから日も浅く、活動もこれからといったところですが、今後、林木育種に関する「橋渡し」の場として育てていきたいと考えていますので、関係各位のこれまで以上に積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

【紙面紹介】

「コウヨウザン」について (1) 2～3
海外育種事情調査 (ヨーロッパの施設内採種園) ... 4
ウイルスを利用した林木育種研究の試み 5
カラマツの安定的種苗生産に向けた技術開発 6

気候変動に適応するためのスギの育種技術開発... 7
林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会と
特定母樹等普及促進会議を開催 8
一般公開「親林の集い」を開催 8

